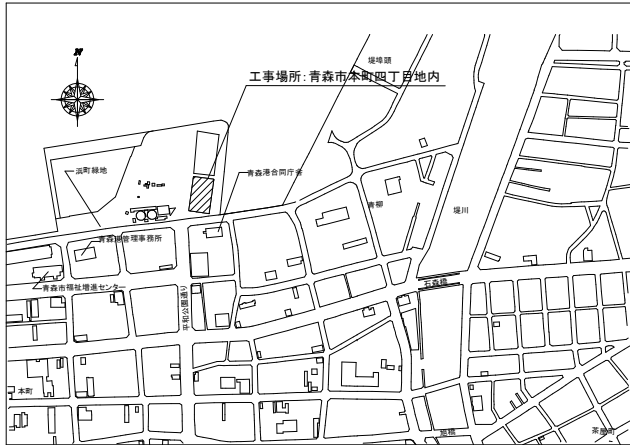


# 青森港本港地区建屋解体工事

[illegible]

<div>青森港本港地区建屋解体</div> <div>工事特記仕様書</div> <div>I 工事概要</div> <div>1. 工事場所 青森市本町四丁目地内</div> <div>2. 敷地面積 28.751.51 m<sup>2</sup></div> <div>3. 工事種目 解体工事一式</div> <div>1) 建屋 鉄骨造平屋建 取りこわし 1棟</div> <div>2) 外構 一式</div> <div>①整地</div> <div>②舗装 取りこわし一式</div> <div>③キュービクル基礎 取りこわし一式</div> <div>4. 指定部分 ・有 ・無 対象部分 ( ) 指定部分工期 年 月 日</div> <div>5. 工事範囲 ・杭残置、他全て撤去し、再生砕石埋戻し</div> <div>II 解体工事仕様</div> <div>(1) 図面及び本特記仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官庁官庁営繕部制定の「建築物解体工事共通仕様書（建築工事編）（令和4年版）」（以下「解体共通仕様書」という。）による。 図面、本特記仕様書及び解体共通仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官庁官庁営繕部制定の「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）令和7版」（以下「標準仕様書」という。）及び「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）（令和7年版）」（以下「改修標準仕様書」という。）による。</div> <div>(2) 本特記仕様書の表記 1) 項目は、○印の付いたものを適用する。 2) 特記事項は、○印の付いたものを適用する。 ○印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。 ○印と※印の付いた場合は、共に適用する。 3) 特記事項に記載の《 》内表示番号は、解体共通仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。 4) 特記事項に記載の《 》内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。 5) 特記事項に記載の[ ]内表示番号は、改修標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。</div>	章 項 目	特 記 事 項	○解体後の整地	解体後の埋戻し及び盛土 ○行う 整地高さ ○現状G L ・図示 ( / 図による) 埋戻し及び盛土の材料 ○山砂の類 ・他現場の建設発生土の中の良質土 ・再生コンクリート砂 ○再生砕石 (RC40) t=150 埋戻し及び盛土に当たっては、各層30cm程度毎に締め固めること。 解体後の地均し ○基礎部分等の撤去範囲の地均しを行う ・敷地全体の地均しを行う ・敷地の地均しを行わない わない	《3. 13. 1》		・ JIS K 3850-1に基づいた測定																																															
①章 各章共通事項	○適用基準 1) 本設計図書における「標準詳細図」とは、次の基準を指す。 建築工事標準図（令和4年版） 国土交通省大臣官庁官庁営繕部整備課 《1. 4. 1》 ※石綿含有建材の事前調査 工事着手に先立ち、目視及び貸与する設計図書等によって石綿を含有している吹き付け材、成形板、建築材料等の使用の有無について調査する。 調査範囲（※施工範囲全て ・図示） 貸与資料（・アスベスト関係材料調査票 ・既存図面） ・分析による石綿含有建材の調査 分析対象 アクチノライト、アモサイト、アンソフィライト、クリソタイル、クロシドライト、トレモライト 分析方法 <table><tr><th>材料名</th><th>定性分析方法</th><th>定量分析方法</th></tr><tr><td></td><td>JIS A 1481-1またはJIS A 1481-3またはJIS A 1481-2</td><td>JIS A 1481-3またはJIS A 1481-4</td></tr><tr><td></td><td>・ 箇所</td><td>・ 箇所</td></tr><tr><td></td><td>・ 箇所</td><td>・ 箇所</td></tr><tr><td></td><td>・ 箇所</td><td>・ 箇所</td></tr></table> サンプル数 1 箇所あたり3サンプル 採取箇所 ・図示 ・	材料名	定性分析方法	定量分析方法		JIS A 1481-1またはJIS A 1481-3またはJIS A 1481-2	JIS A 1481-3またはJIS A 1481-4		・ 箇所	・ 箇所		・ 箇所	・ 箇所		・ 箇所	・ 箇所	5 章 特別管理産業廃棄物の処理等	・施工計画調査	《5. 1. 2》 <table><tr><th>材料名</th><th>厚さ (mm)</th><th>調査を行う範囲</th></tr><tr><td></td><td></td><td>※図示 ・工事対象範囲</td></tr><tr><td></td><td></td><td>※図示 ・工事対象範囲</td></tr><tr><td></td><td></td><td>※図示 ・工事対象範囲</td></tr><tr><td></td><td></td><td>※図示 ・工事対象範囲</td></tr></table>	材料名	厚さ (mm)	調査を行う範囲			※図示 ・工事対象範囲			※図示 ・工事対象範囲			※図示 ・工事対象範囲			※図示 ・工事対象範囲																				
材料名	定性分析方法	定量分析方法																																																				
	JIS A 1481-1またはJIS A 1481-3またはJIS A 1481-2	JIS A 1481-3またはJIS A 1481-4																																																				
	・ 箇所	・ 箇所																																																				
	・ 箇所	・ 箇所																																																				
	・ 箇所	・ 箇所																																																				
材料名	厚さ (mm)	調査を行う範囲																																																				
		※図示 ・工事対象範囲																																																				
		※図示 ・工事対象範囲																																																				
		※図示 ・工事対象範囲																																																				
		※図示 ・工事対象範囲																																																				
②章 仮設工事	○騒音・粉じん等の対策 騒音・粉じん等の対策 ・防音パネル ○養生シート ・防音シート ○万能鋼板設置範囲及び高さ ○図示 ( / 図による) ・ 《2. 2. 1》 ○足場等 《2. 2. 4》 「「手すり先行工法に関するガイドライン」について」（厚生労働省 平成21年4月24日）の「（別紙）手すり先行工法等に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙1「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の(2)手すり据置方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行う。 《2. 4. 3》 ・山留めの撤去 鋼矢板等の抜き後の処理 ・ ※直ちに砂等で充填する	⑥章 アスベスト含有建材の除去及び処理	・石綿粉じん濃度測定	測定時期、場所及び測定点 《6. 1. 3》 <table><tr><th>適用</th><th>測定名称</th><th>測定時期</th><th>測定場所</th><th>測定箇所数 (各施工箇所ごと)</th></tr><tr><td>・</td><td>測定1</td><td>処理作業前</td><td>処理作業室内</td><td>・計 点</td></tr><tr><td>・</td><td>測定2</td><td>処理作業前</td><td>調査対象室外部の付近</td><td>・計 点</td></tr><tr><td>・</td><td>測定3</td><td>処理作業室内</td><td>処理作業室内</td><td>・計 点</td></tr><tr><td>・</td><td>測定4</td><td>セキュリティゾーン入口</td><td>セキュリティゾーン入口</td><td>・計 点</td></tr><tr><td>・</td><td>測定5</td><td>処理作業中</td><td>集じん・排気装置の排出口 (処理作業室外の場合)</td><td>出口吹出し風速1m/sec以下の位置 ・計 点</td></tr><tr><td>・</td><td>測定6</td><td>処理作業中</td><td>処理作業室外 ・施工区画周辺 ・敷地境界</td><td>・計 点</td></tr><tr><td>・</td><td>測定7</td><td>処理作業後（シート養生中）</td><td>処理作業室内</td><td>・計 点</td></tr><tr><td>・</td><td>測定8</td><td>処理作業後シート撤去後</td><td>処理作業室内</td><td>・計 点</td></tr><tr><td>・</td><td>測定9</td><td>1週間以降</td><td>調査対象室外部の付近</td><td>・計 点</td></tr></table> 上記は石綿含有仕上塗材除去粉じん濃度測定を示す (A棟・C棟・D棟・E棟・体育館棟) 測定方法 ・自動測定器による測定	適用	測定名称	測定時期	測定場所	測定箇所数 (各施工箇所ごと)	・	測定1	処理作業前	処理作業室内	・計 点	・	測定2	処理作業前	調査対象室外部の付近	・計 点	・	測定3	処理作業室内	処理作業室内	・計 点	・	測定4	セキュリティゾーン入口	セキュリティゾーン入口	・計 点	・	測定5	処理作業中	集じん・排気装置の排出口 (処理作業室外の場合)	出口吹出し風速1m/sec以下の位置 ・計 点	・	測定6	処理作業中	処理作業室外 ・施工区画周辺 ・敷地境界	・計 点	・	測定7	処理作業後（シート養生中）	処理作業室内	・計 点	・	測定8	処理作業後シート撤去後	処理作業室内	・計 点	・	測定9	1週間以降	調査対象室外部の付近	・計 点
適用	測定名称	測定時期	測定場所	測定箇所数 (各施工箇所ごと)																																																		
・	測定1	処理作業前	処理作業室内	・計 点																																																		
・	測定2	処理作業前	調査対象室外部の付近	・計 点																																																		
・	測定3	処理作業室内	処理作業室内	・計 点																																																		
・	測定4	セキュリティゾーン入口	セキュリティゾーン入口	・計 点																																																		
・	測定5	処理作業中	集じん・排気装置の排出口 (処理作業室外の場合)	出口吹出し風速1m/sec以下の位置 ・計 点																																																		
・	測定6	処理作業中	処理作業室外 ・施工区画周辺 ・敷地境界	・計 点																																																		
・	測定7	処理作業後（シート養生中）	処理作業室内	・計 点																																																		
・	測定8	処理作業後シート撤去後	処理作業室内	・計 点																																																		
・	測定9	1週間以降	調査対象室外部の付近	・計 点																																																		
③章 解体施工	・杭の解体 杭 ・行う ・行わない 杭の解体工法 ・引抜き工法 ・粉砕による解体 《3. 9. 2》 ・工作物 (建築物以外) さく、照明設備等の附属物の解体 ・行う ( / 図による) 《3. 10. 1》 ・樹木等 樹木の伐採抜根及び移植 ・行う ( / 図による) 《3. 11. 1》 ・地下埋設物・埋設配管 地下埋設物及び埋設配管の解体 ・行う ( / 図による) 《3. 12. 1》 ・測定4 ・測定5 粉じん相対濃度計（デジタル粉じん計）パーティクルカウンター、繊維状粒子自動測定器（リアルタイムファイバーモニター）等の粉じんを迅速に測定できる機器を用いた測定																																																					
					・石綿含有吹付け材の除去	《6. 3. 2、3》 除去対象範囲 ・図示 ・ 工法 ・ ※6. 3. 2(1) 除去した石綿含有吹付け材等の飛散防止措置 ※湿潤化 ・固形化 除去した石綿含有吹付け材等の処分 ・埋立処分（管理型最終処分場） ・中間処理（溶融施設又は無害化処理施設）																																																
					・石綿含有保温材等の除去	《6. 4. 1》 除去対象範囲 ・図示 ・ 工法 ・ 破砕して除去 ・ 原型のまま手ばらし 除去した石綿含有保温材等の飛散防止 ※湿潤化 ・固形化 除去した石綿含有保温材等の処分 ・埋立処分（管理型最終処分場） ・中間処理（溶融施設又は無害化処理施設）																																																
					○石綿含有成形板の除去	《6. 5. 1》 除去対象範囲 ・図示 除去した石綿含有成形板の処分 ・石綿含有せっこうボード ※埋立処分（管理型最終処分場） ○石綿含有せっこうボードを除く石綿含有成形板 ○埋立処分（安定型最終処分場） ・中間処理（溶融施設又は無害化処理施設） 作業場所周辺養生 ○行う ・行わない																																																
					・石綿含有仕上塗材の除去	《6. 6. 1》 除去対象範囲 ・図示 ・ 工法 ・ 集じん装置付き超高压水洗工法（100Mpa以上） ・ 湿式集じん装置付きディスクグラインダー工法 ・ 乾式集じん装置付きディスクグラインダー工法 ・ 剥離剤（薬品）工法 ・ 超音波ケレン工法 ・ 除去した石綿含有仕上塗材の処分 ・埋立部分（安定型最終処分場） ・中間処理（溶融施設又は無害化処理施設）																																																
					○石綿含有の設備資機材の除去	アスベスト含有の設備資機材の処理については、取りこわし特記仕様書（電気設備の部）及び（機械設備の部）による。																																																

章		項 目	特 記 事 項																			
一般共通事項	① 産業廃棄物広域認定制度	産業廃棄物広域認定制度により廃棄物を処理する場合は、事前に監督員と協議すること。																				
	※解体工事 施工技士	解体工事を適切に管理するため、解体工事施工技士を1名以上現場に配置すること。																				
解体施工	① PCB含有シーリング材の撤去方法	※「標準施工要領書(日本シーリング工事業協同組合連合会/日本シーリング材工業会)」による。 (撤去範囲 ※ 図示 ・ )																				
その他	① 建設副産物の処理	取りこわしにより発生する建設副産物は、以下の施設での受入れとして積算している。																				
		① 特定建設資材廃棄物																				
		<table><tr><th>名 称</th><th>施設名称</th><th>施設所在地</th><th>備 考</th></tr><tr><td>コンクリート塊</td><td>フェニックス</td><td>青森市大字駒込字深沢1153-2</td><td></td></tr><tr><td>アスファルト、コンクリート塊</td><td>フェニックス</td><td>青森市大字駒込字深沢1153-2</td><td></td></tr><tr><td>建設発生木材</td><td>栄産業</td><td>青森市浪岡大字玉奈風沢字石倉倉庫(1-300)</td><td></td></tr></table>	名 称	施設名称	施設所在地	備 考	コンクリート塊	フェニックス	青森市大字駒込字深沢1153-2		アスファルト、コンクリート塊	フェニックス	青森市大字駒込字深沢1153-2		建設発生木材	栄産業	青森市浪岡大字玉奈風沢字石倉倉庫(1-300)					
名 称	施設名称	施設所在地	備 考																			
コンクリート塊	フェニックス	青森市大字駒込字深沢1153-2																				
アスファルト、コンクリート塊	フェニックス	青森市大字駒込字深沢1153-2																				
建設発生木材	栄産業	青森市浪岡大字玉奈風沢字石倉倉庫(1-300)																				
		・ 最終処分する建設廃棄物																				
		<table><tr><th>名 称</th><th>施設名称</th><th>施設所在地</th><th>備 考</th></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	名 称	施設名称	施設所在地	備 考																
名 称	施設名称	施設所在地	備 考																			
		① 処理に注意を要する建設廃棄物																				
		<table><tr><th>名 称</th><th>施設名称</th><th>施設所在地</th><th>備 考</th></tr><tr><td>CCA処理木材</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>ひ素・カドミウム含有石膏ボード</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>石膏ボードの処理</td><td>青森産業廃棄物処理事業協同組合</td><td>青森市大字鶴ヶ坂字田川200</td><td></td></tr></table>	名 称	施設名称	施設所在地	備 考	CCA処理木材				ひ素・カドミウム含有石膏ボード				石膏ボードの処理	青森産業廃棄物処理事業協同組合	青森市大字鶴ヶ坂字田川200					
名 称	施設名称	施設所在地	備 考																			
CCA処理木材																						
ひ素・カドミウム含有石膏ボード																						
石膏ボードの処理	青森産業廃棄物処理事業協同組合	青森市大字鶴ヶ坂字田川200																				
		・ 特別管理産業廃棄物																				
		<table><tr><th>名 称</th><th>施設名称</th><th>施設所在地</th><th>備 考</th></tr><tr><td>廃油</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>廃酸</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>廃アルカリ</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>ダイオキシン含有廃棄物</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	名 称	施設名称	施設所在地	備 考	廃油				廃酸				廃アルカリ				ダイオキシン含有廃棄物			
名 称	施設名称	施設所在地	備 考																			
廃油																						
廃酸																						
廃アルカリ																						
ダイオキシン含有廃棄物																						
		① アスベスト含有建材																				
		<table><tr><th>名 称</th><th>施設名称</th><th>施設所在地</th><th>備 考</th></tr><tr><td>スレート板</td><td>青森産業廃棄物処理事業協同組合</td><td>青森市大字鶴ヶ坂字田川200</td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	名 称	施設名称	施設所在地	備 考	スレート板	青森産業廃棄物処理事業協同組合	青森市大字鶴ヶ坂字田川200													
名 称	施設名称	施設所在地	備 考																			
スレート板	青森産業廃棄物処理事業協同組合	青森市大字鶴ヶ坂字田川200																				
		・ 特殊な建築副産物																				
		<table><tr><th>名 称</th><th>施設名称</th><th>施設所在地</th><th>備 考</th></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	名 称	施設名称	施設所在地	備 考																
名 称	施設名称	施設所在地	備 考																			

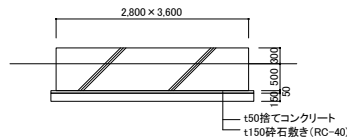


案内図

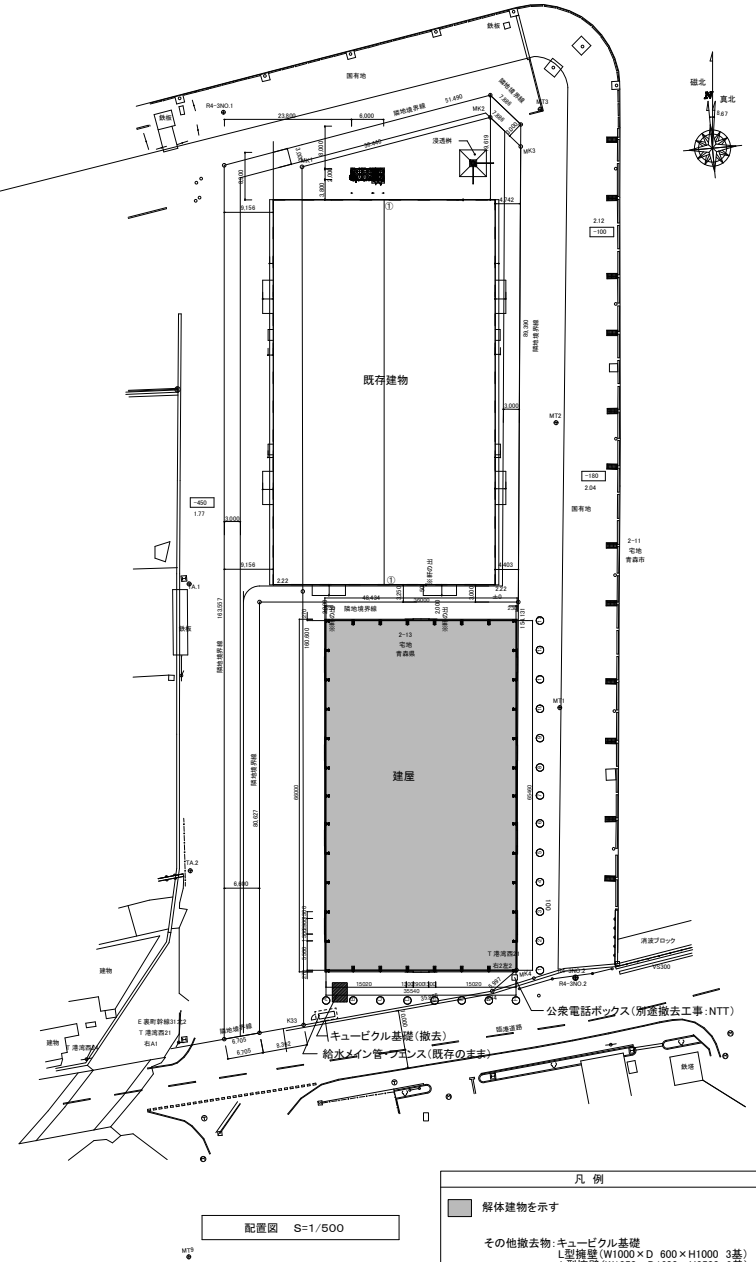
解体建物概要	
建築場所	青森市本町四丁目地内
用途地域	都市計画区域内(市街化区域)
用途	準工業地域(臨港地区)
防火指定	—
容積率	200 %
建ぺい率	60 %
敷地面積	5,436.32 m <sup>2</sup> (県有地部: 3,508.75m <sup>2</sup> 、市有地部分(借地): 1,927.57m <sup>2</sup> )
最高の高さ	10.500 m
最高の軒高	6.500 m
その他 地域・地区	臨港地区、特別用途地区
備考	

建物概要	
用途	倉庫
工事種別	14項 倉庫
構造	解体
構造	鉄骨造 平屋建て
建築面積	2,435.00 m <sup>2</sup>
延べ面積	2,376.00 m <sup>2</sup>

建物名	使用建材	アスベスト含有の区分	施工部位
青森港本港地区建屋	アスファルトルーフィング	みなし含有	外部: 北側・東側・南側 庇
	複合板(スレート板+木毛板+スレート板)	みなし含有	外部: 北側・東側 外壁腰壁
	波型スレート板	みなし含有	外部: 北側・南側・西側 外壁
	アスファルトルーフィング	みなし含有	外部: 北側・南側・西側 外壁
	シーリング	みなし含有	建具廻り

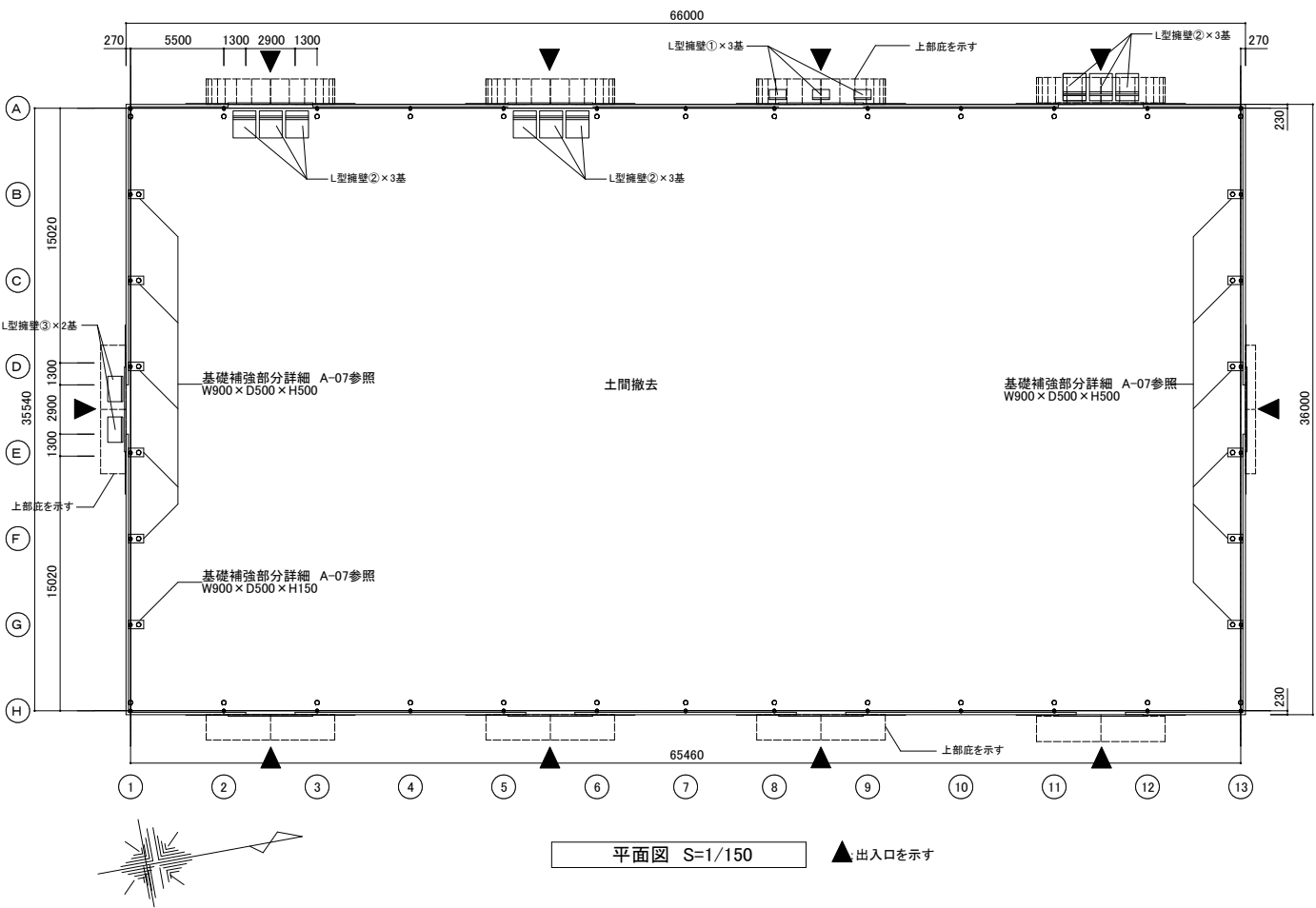


キュービクル基礎詳細図 S=1:50



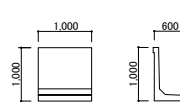
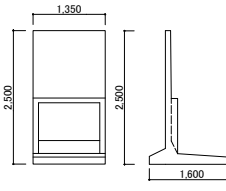
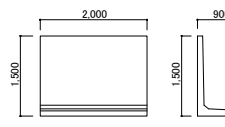
凡 例
■ 解体建物を示す
その他撤去物: キュービクル基礎 L型擁壁 (W1000 × D 600 × H1000 3基) L型擁壁 (W1350 × D 1600 × H2500 9基) L型擁壁 (W2000 × D 900 × H1500 2基) アスファルト舗装: 外構図による



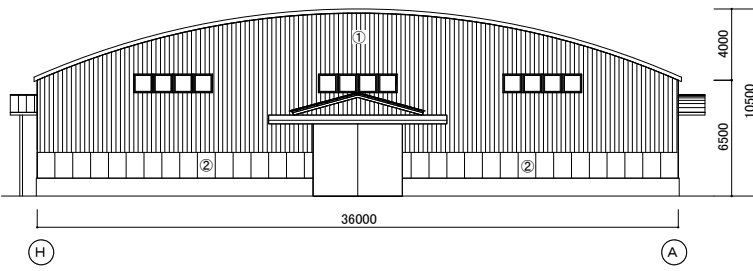
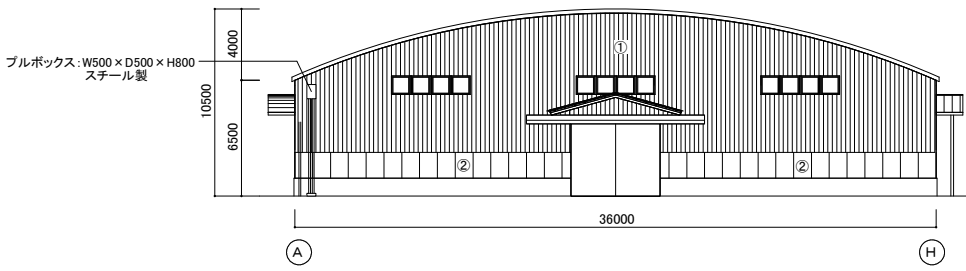


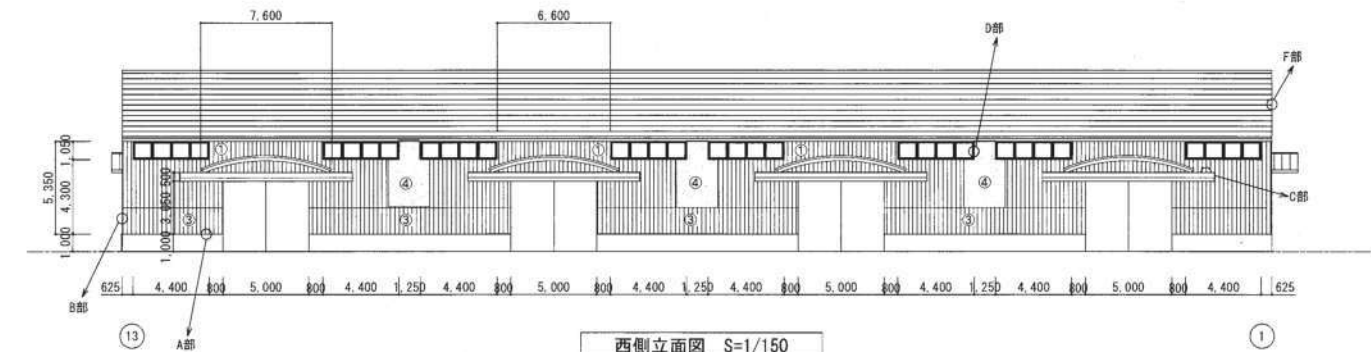
外部仕上表	
根廻	コンクリート打放 H=1,000
外壁(北南側)	① C-100×50×20×2.3@1,000下地の上、石膏ボードt=12.5二枚張りの上ガルバリウム鋼板t=0.4張り
	② C-100×50×20×2.3@1,000下地の上、スレート板t=5+木毛セメント板t=25+スレート板t=5張り
外壁(東西側)	③ C-100×50×20×2.3@1,000下地の上、木毛セメント板t=25の上ガルバリウム鋼板t=0.4張り
	④ C-100×50×20×2.3@1,000下地の上、木毛セメント板t=25の上アスファルトルーフィング張り、波形スレート板t=5張り
屋根	かわら棒ハゼカラー折板
建具	扉:鋼製引分け戸W3,600×H4,050、窓:アルミ製2連引違い戸W4,400×H1,050
庇	母屋:C-100×50×20×3.2、野地板:ラワン合板t=12、屋根:カラートタン

内部仕上表	
床	コンクリート金ゴテ
立上り	コンクリート打放H=1,000の上、荷づくり板100×50@200
北南側壁	下壁 C-100×50×20×2.3@1,000下地の上、木毛セメント板t=25の上、荷づくり板100×50@200H=4,000
	上壁 C-100×50×20×2.3@1,000下地の上、石膏ボードt=12.5二枚貼H=3,450
東西側壁	下壁 C-100×50×20×2.3@1,000下地の上、木毛セメント板t=25の上、荷づくり板100×50@200H=4,000
	上壁 C-100×50×20×2.3@1,000下地の上、木毛セメント板t=25

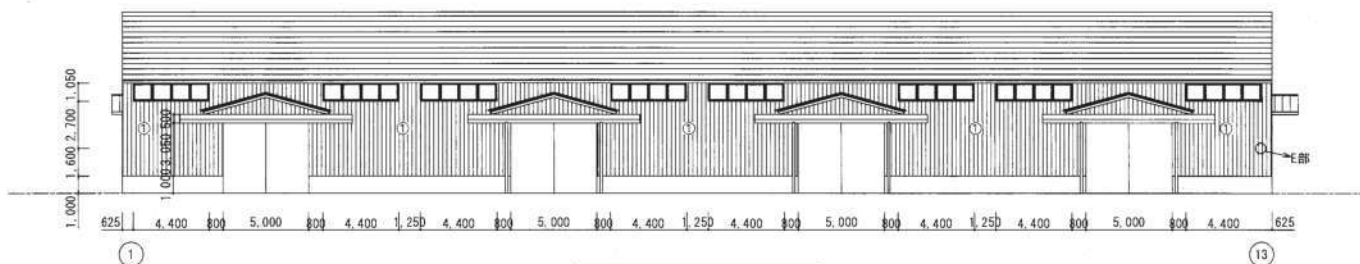
L型擁壁①	数量:3基	L型擁壁②	数量:9基	L型擁壁③	数量:2基
	断面積:0.152m <sup>2</sup>		断面積:0.682m <sup>2</sup>		断面積:0.267m <sup>2</sup>
特記事項:有筋コンクリート(D10@200タテヨコ共)					

L型擁壁詳細図 S=1:50





西側立面図 S=1/150

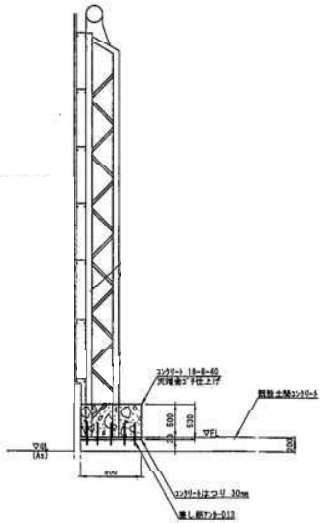


東側立面図 S=1/150

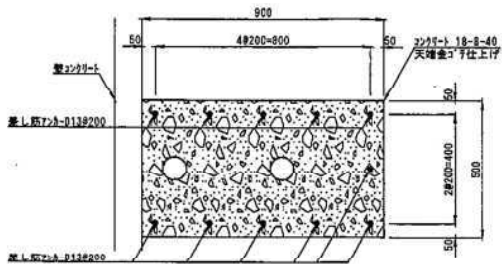
A部詳細 S=1/5	B部出隅詳細 S=1/10
C部上部見切 S=1/10	D部縦見切 S=1/5
E部腰詳細 S=1/5	F部破風見切 S=1/5



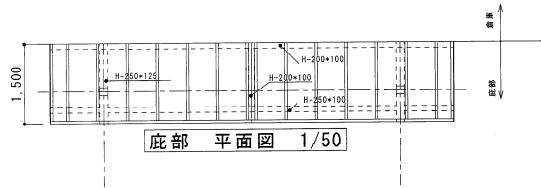




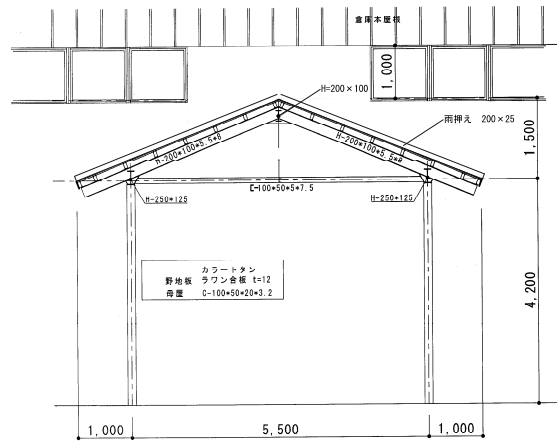
基礎補強部矩計図 S=1/40



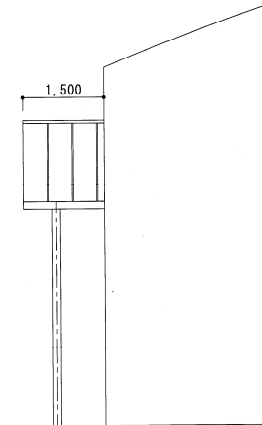
基礎補強部平面図 S=1/10



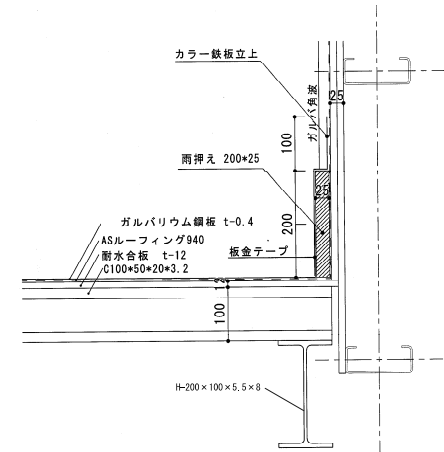
底部 平面図 1/50



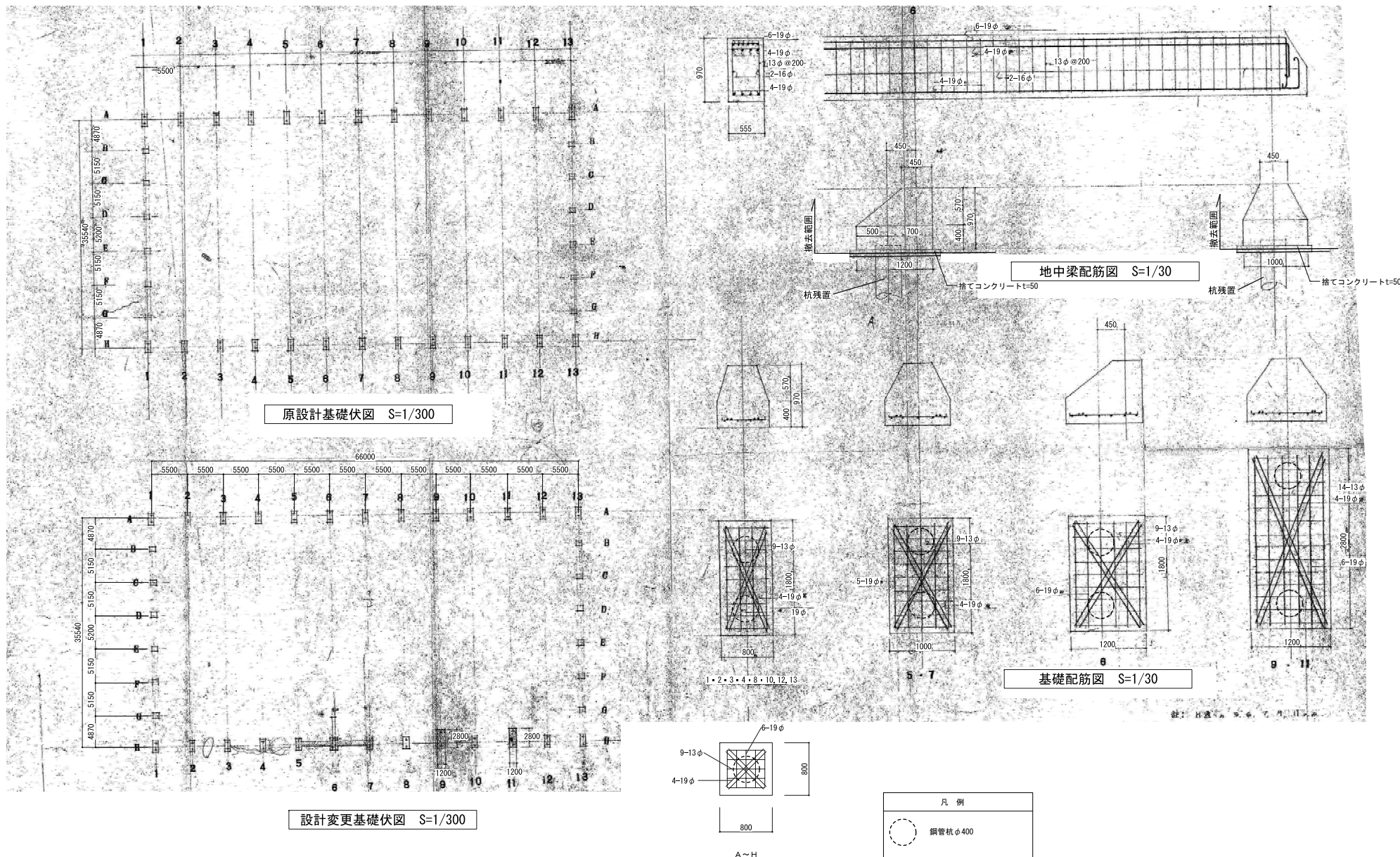
底部 正面図 1/50



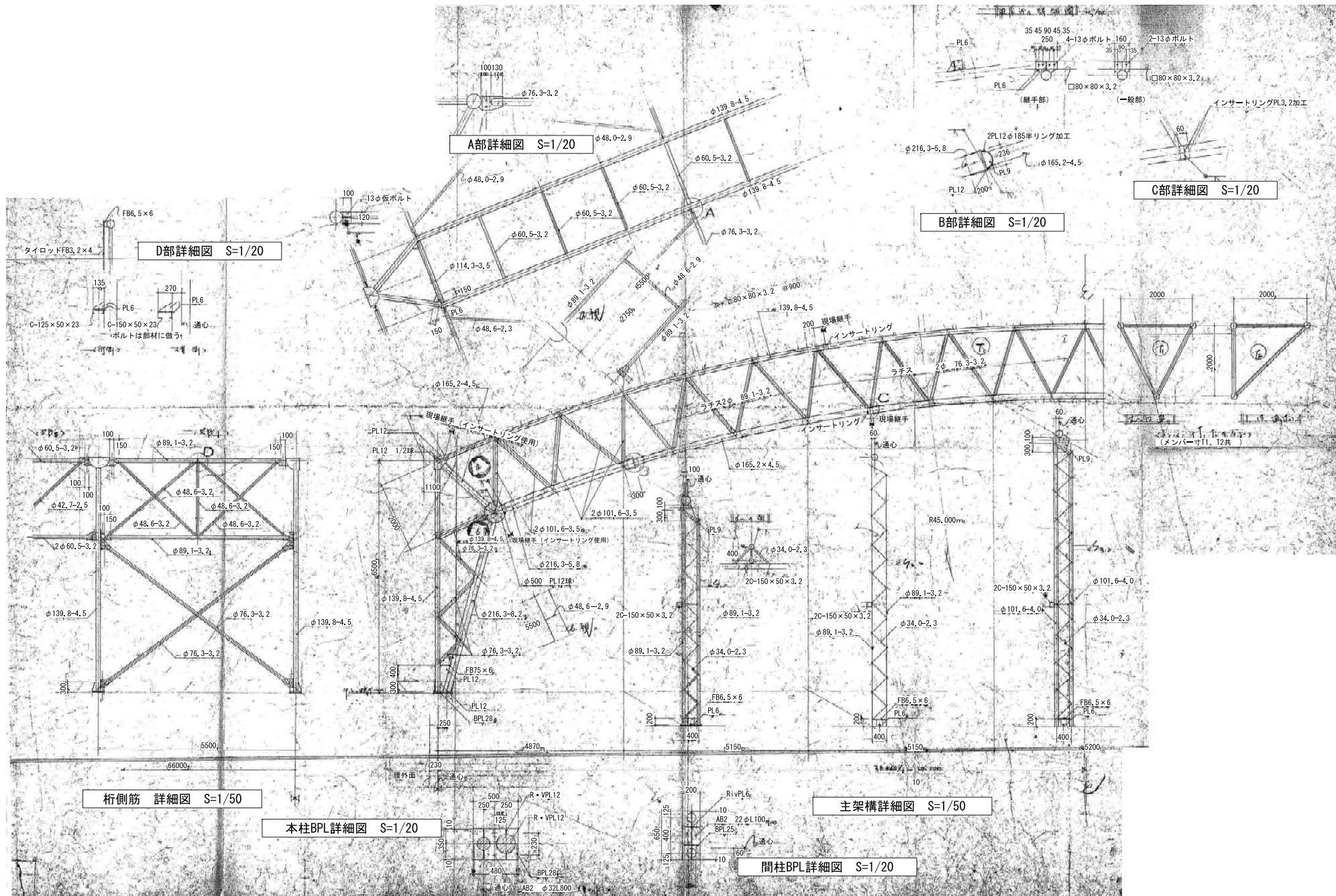
断面図 1/50

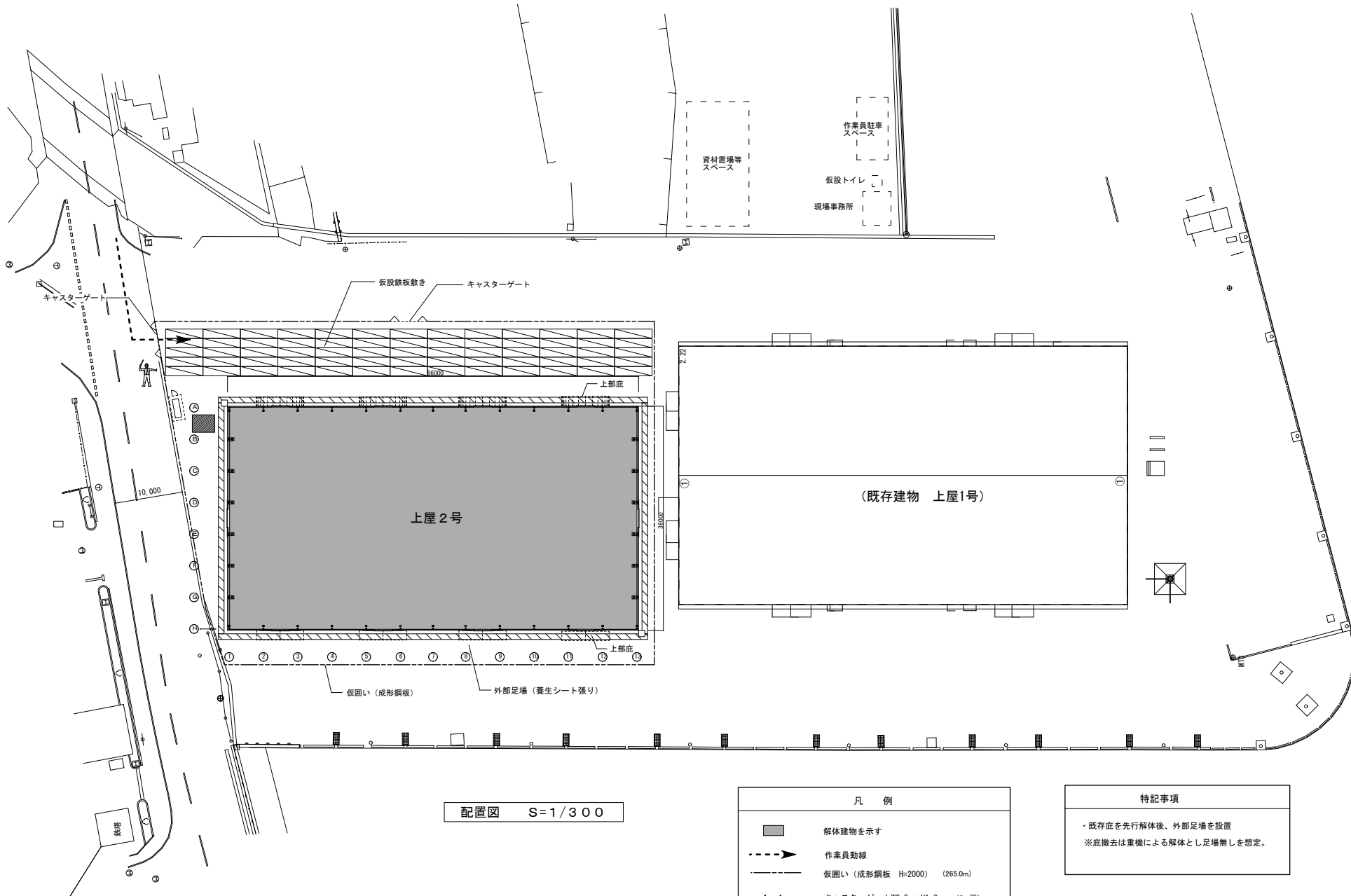


部分詳細図 S=1/5





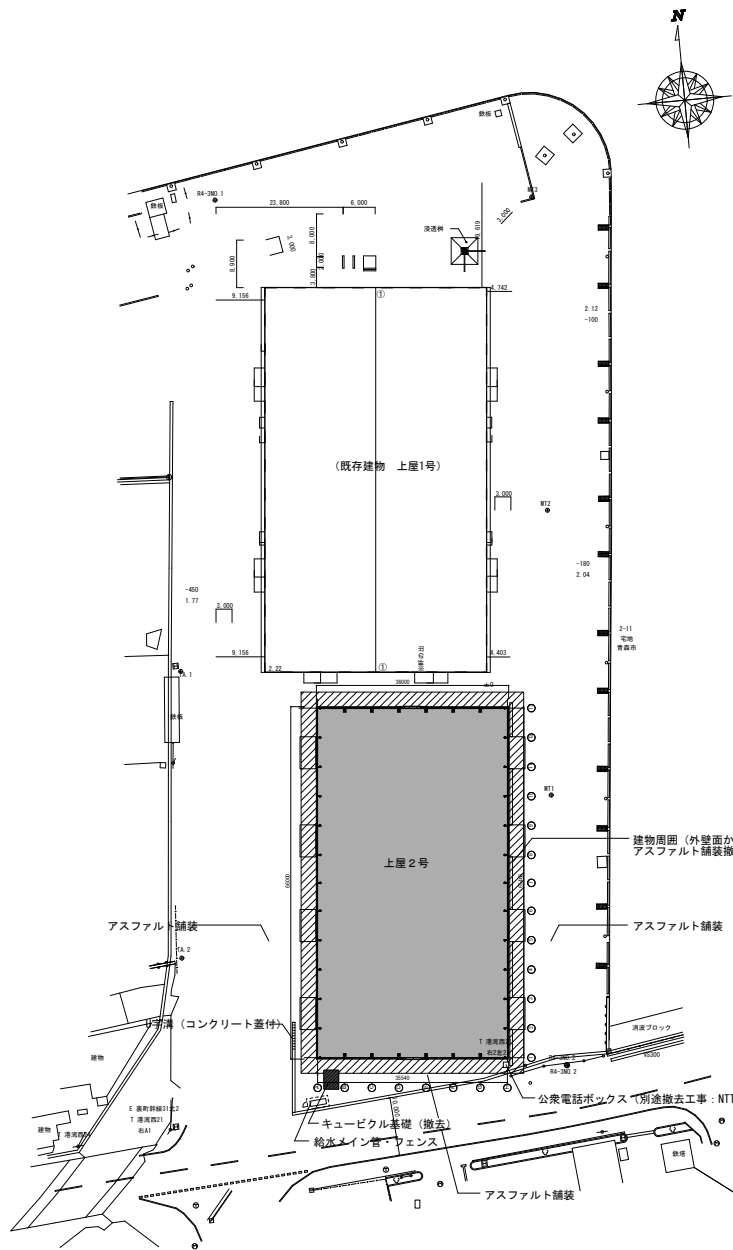




配置図 S=1/300

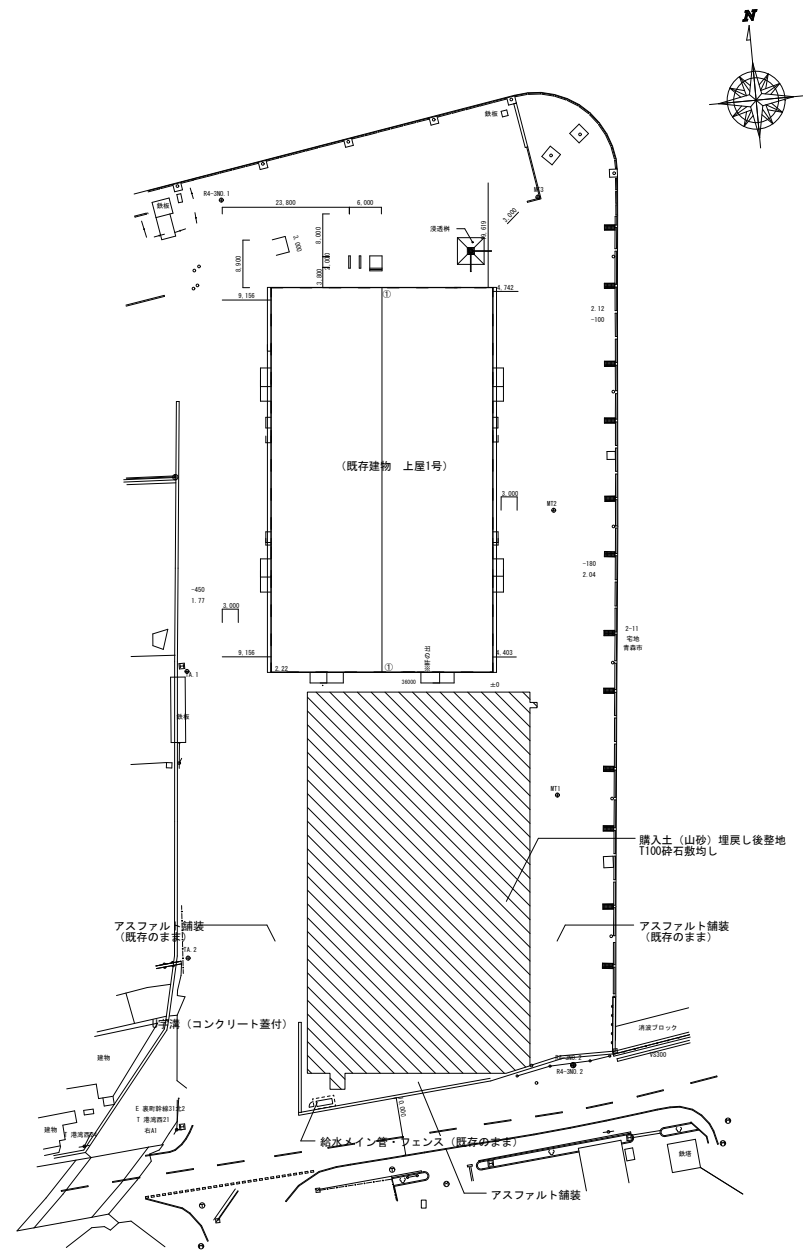
凡 例	
	解体建物を示す
	作業員動線
	仮囲い（成形鋼板 H=2000）（265.0m）
	キャストゲート W6.0m×H1.8m （2ヶ所）
	仮設鉄板敷き（1524×6096×22mm）（604m2）
	交通誘導員（30人） ・解体関係重機の出入時、処分物搬出時、埋戻土搬入時
	外部足場（養生シート張り）

特記事項
・既存庇を先行解体後、外部足場を設置 ※庇撤去は重機による解体とし足場無しを想定。



外構図（解体前） S=1/500

凡 例	
	解体建物を示す
	アスファルト舗装（密粒度F13 t50）撤去を示す（640m2） （建物周囲3mの範囲まで撤去） ※下層路盤砕石は既存のまま



外構図（解体後） S=1/500

凡 例	
	整地範囲を示す（2980m2） ※キュービクル基礎・給水管部分を含む） 整地範囲内：T100砕石敷均し



青森県営上屋2号棟解体工事  
取りこわし特記仕様書（電気設備）

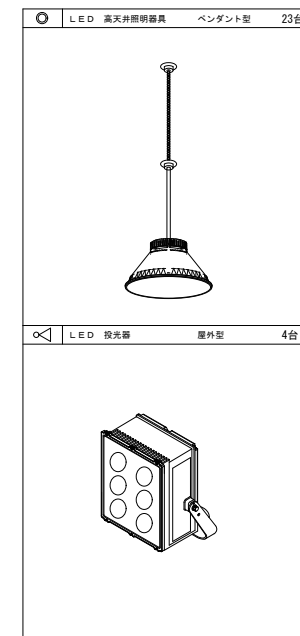
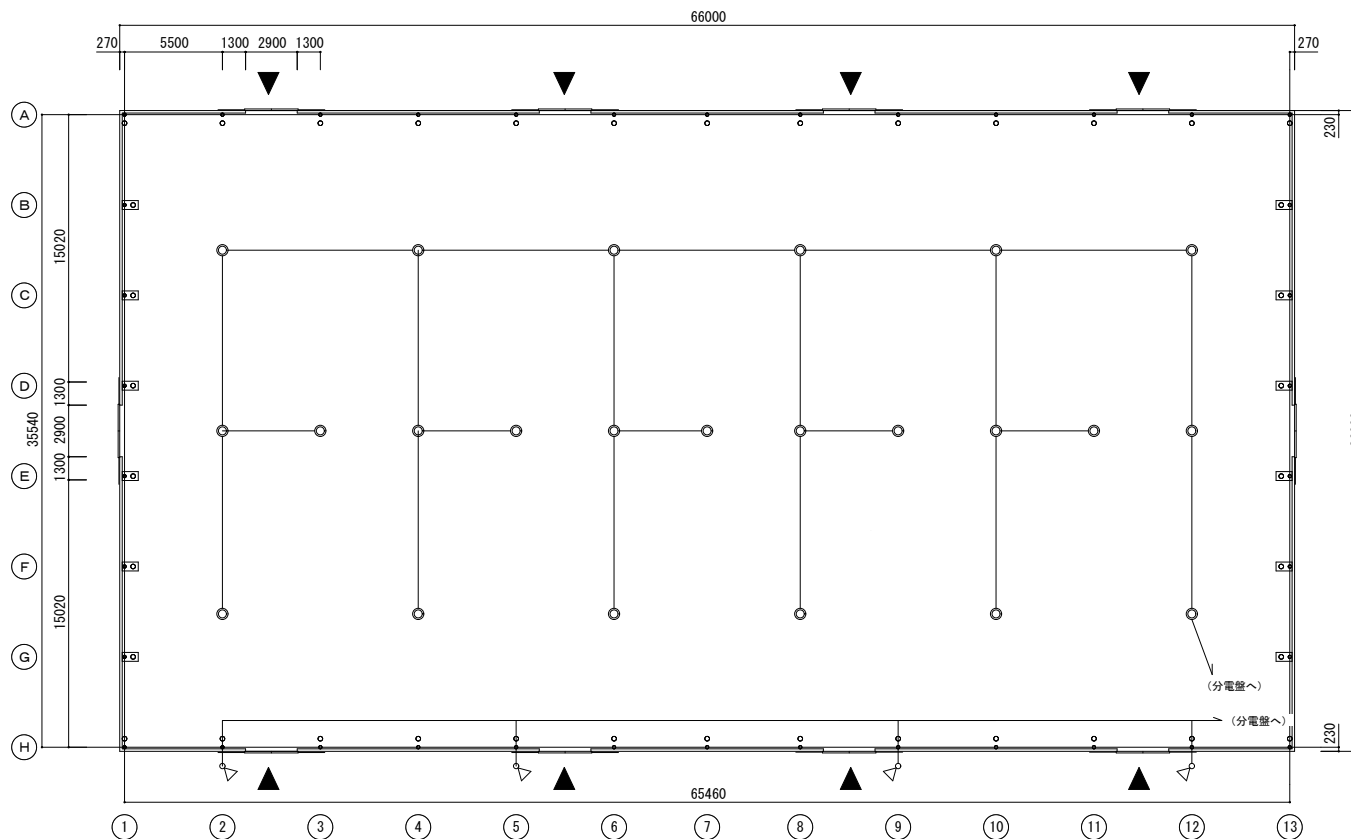
I. 工事概要

1. 工事場所
- 取りこわし特記仕様書（建築工事）による。
2. 敷地面積
- 取りこわし特記仕様書（建築工事）による。
3. 工事種目
- 1) 上屋
- 電気設備
- 取りこわし一式

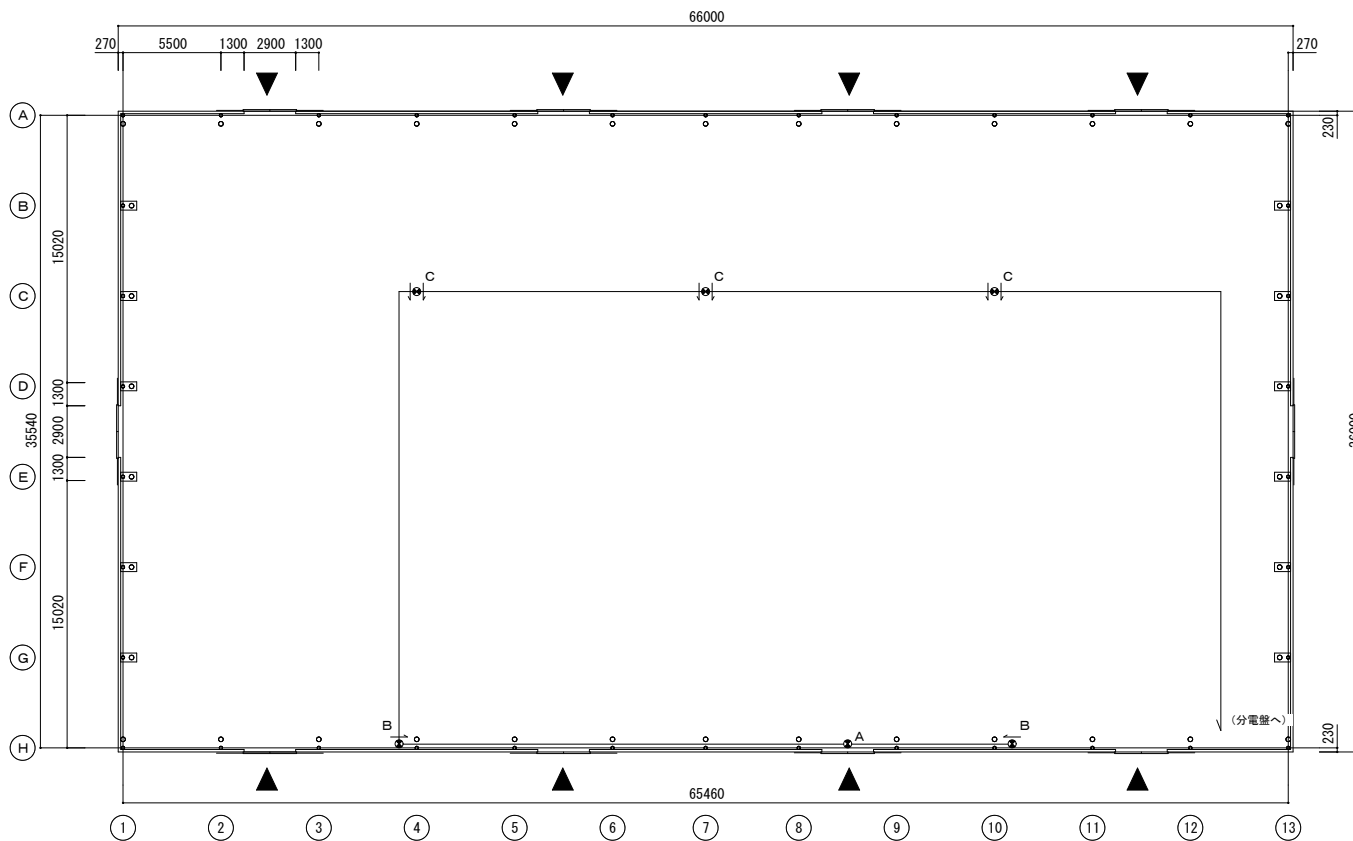
II. 工事仕様

1. 共通仕様
- 取りこわし特記仕様書（建築工事）による。
2. 特記仕様（●印のものを適用し、○印のものは適用しない）
- (1) 一般共通事項
- 発生材の種類、処理等は工事補足説明事項による。
- 分析調査
- 有り
- 微量PCB含有調査（ ）
- アスベスト含有調査（ ）
- 
- 無し（解体共通仕様書による「施工調査」の結果、分析調査の必要が生じた場合は監督職員と協議すること。）
- (2) 取りこわし内容
- 図示された機器類、配管配線、ケーブルの解体を行う。（地下埋設物、埋設配管を含む）
- 下記の廃棄物等及び機器類は内外装材の解体前に取外し又は回収する。  
これ以外の配管配線、機器類はコンクリート及び内外装材と同時に解体してよい。
- 1) 廃棄物等（「施工調査」の結果、●印以外の廃棄物等が確認された場合は監督職員と協議すること。）
- 再資源化を図るもの
- 小型二次電池
- 蛍光ランプ及びHIDランプ（水銀リサイクル共）
- 
- 特別管理産業廃棄物
- アスベスト含有材（○）
- PCB含有機器（○蛍光灯安定器 ○変圧器 ○）
- 廃油（○）
- 廃アルカリ（○アルカリ蓄電池 ○）
- 特殊な建設副産物
- イオン化式感知器
- 六ふっ化硫黄（SF6）ガス（○ガス絶縁開閉器 ○）
- 2) 機器類
- 受変電盤
- 直流電源装置
- 発電装置
- 

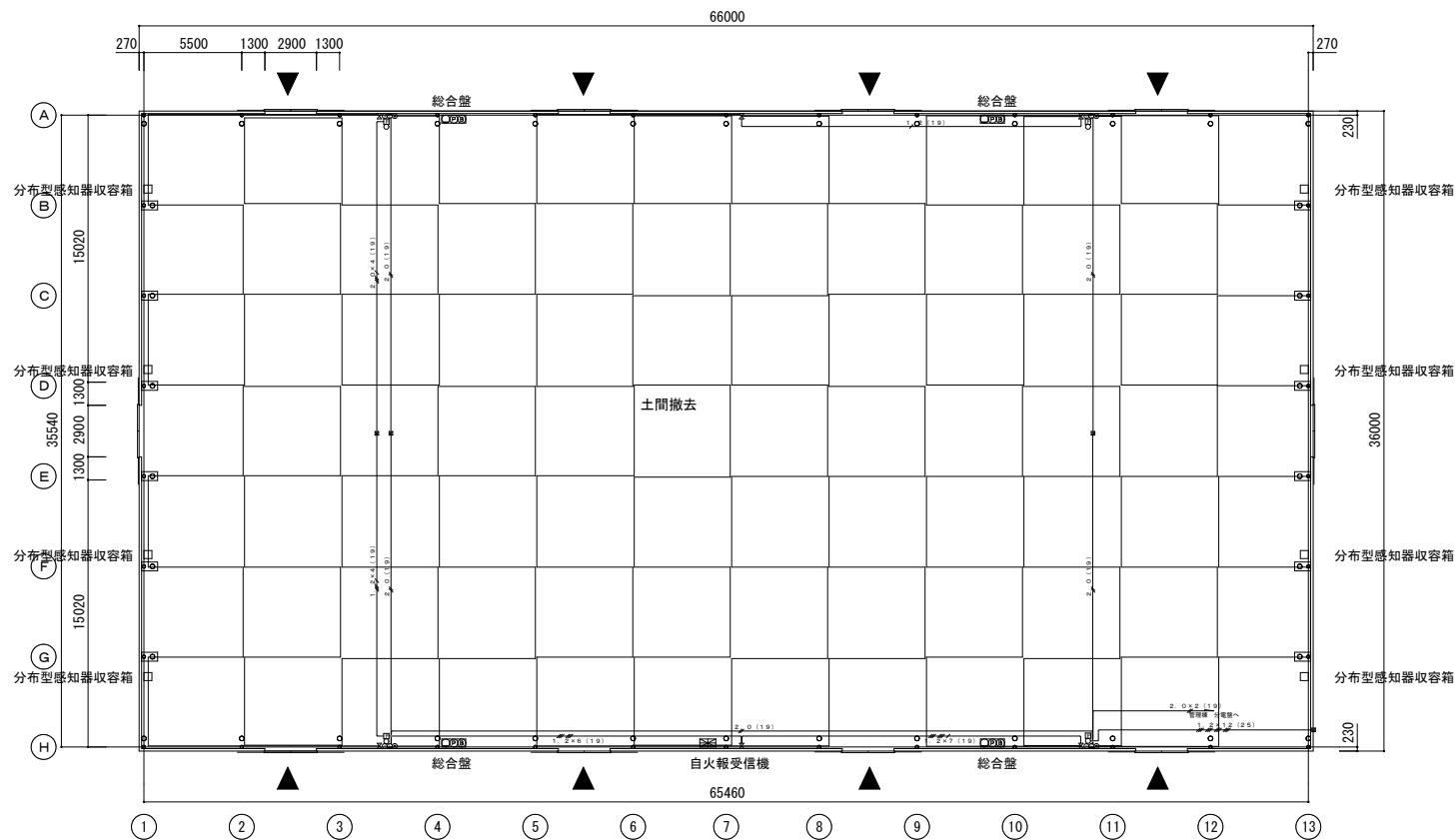




照明・誘導灯 電線・電線管撤去	
IV5.5sq	800m
IV2.0mm	4360m
E31	240m
E25	140m
E19	280m



● A	LED 避難口誘導灯	B級 片面型	1台
壁直付・天井直付・吊下兼用型			
● B	LED 室内通路誘導灯	B級 片面型	2台
壁直付・天井直付・吊下兼用型			
● C	LED 通路誘導灯	B級 両面型	3台
壁直付・天井直付・吊下兼用型			

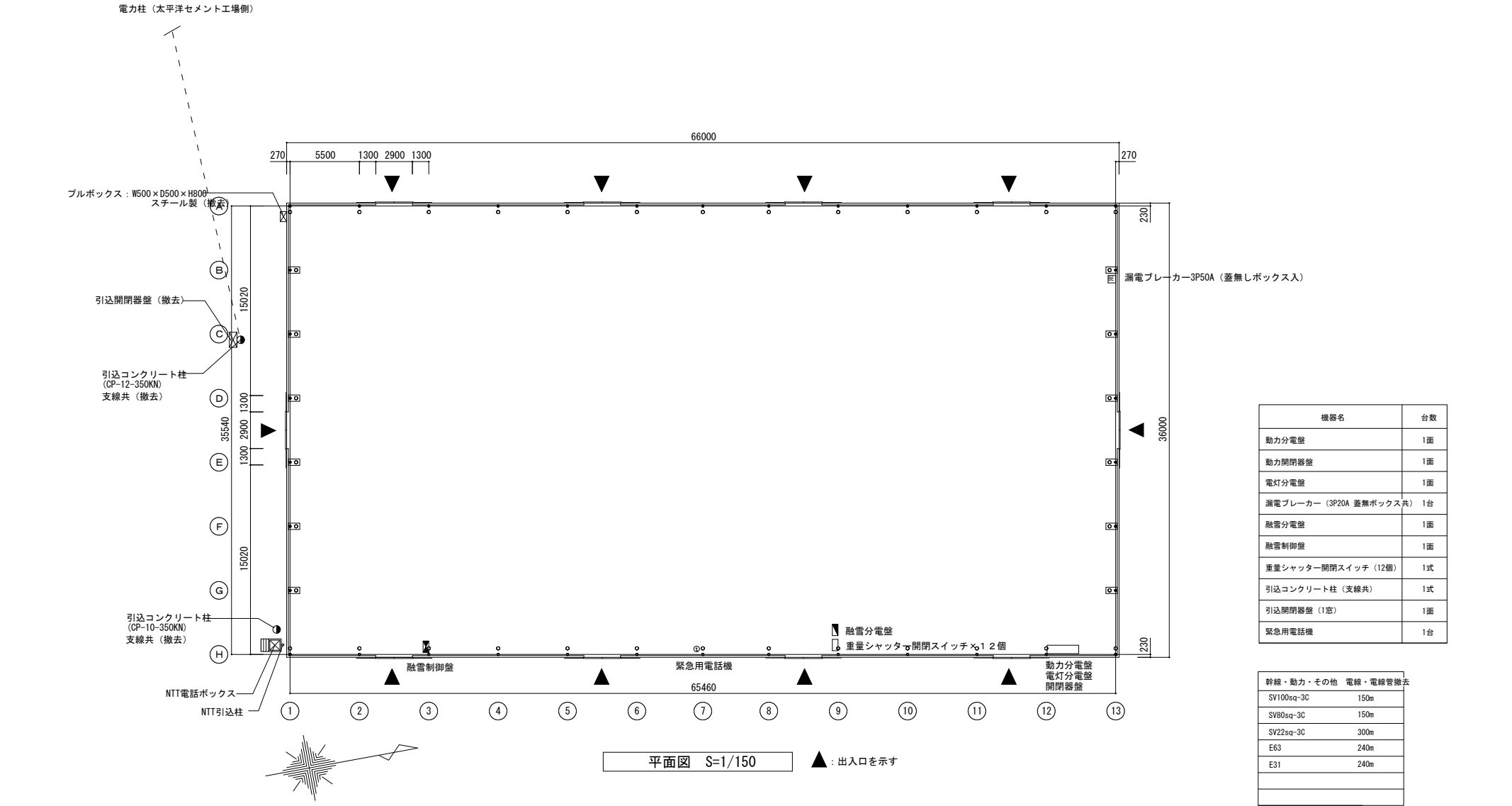


機器名	台数
分布型感知器収容箱	8台
総合盤	4台
自火報受信機	1台

自動火災報知設備	電線・電線管撤去
1V2.0mm	310m
1V1.2mm	1060m
E25	40m
E19	330m

平面図 S=1/150

▲：出入口を示す



機器名	台数
動力分電盤	1面
動力開閉器盤	1面
電灯分電盤	1面
漏電ブレーカー (3P20A 蓋無しボックス共)	1台
融雪分電盤	1面
融雪制御盤	1面
重量シャッター開閉スイッチ (12個)	1式
引込コンクリート柱 (支線共)	1式
引込開閉器盤 (1窓)	1面
緊急用電話機	1台

幹線・動力・その他	電線・電線管撤去
SV100sq-3C	150m
SV80sq-3C	150m
SV22sq-3C	300m
E63	240m
E31	240m

特記事項
・幹線切離しは引込柱、架空線、BOXまでとする。 ※電力柱 (太平洋セメント工場側) から引込柱までのケーブル及ビメーターの撤去は東北電力が行う。 ※電話ボックス (基礎共) ・引込柱・ケーブルの撤去はNTTが行う。

青森県営上屋2号棟解体工事

I、工事概要

- 1、工事場所
- 建築工事 特記仕様書による。
- 2、敷地面積
- 建築工事 特記仕様書による。
- 3、建物概要

建物名称	構 造	階 数	建築基準法による 延べ面積（㎡）	区 分	備 考
上屋	S造	平屋		取りこわし1棟	

- 4、工事種目
- 上屋 機械設備 取りこわし一式

II、工事仕様

1. 共通仕様

図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、全て国土交通省大臣官房官庁営繕部制定の「建築物解体工事共通仕様書（令和4年版）」（以下「解体共通仕様書」という。）により、解体共通仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部制定の「公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編）令和7年版）」（以下「改修工事標準仕様書」という。）及び国土交通省大臣官房官庁営繕部設備・環境課制定の「公共建築設備標準図（機械設備工事編）令和7年版）」（以下「標準図」という。）による

2. 特記仕様

（1）一般共通事項 （●印のものを適用する。）

○官公署への手続き等 工事の着手、施工にあたり、関係官公署その他の関係機関への必要な手続き等を遅延なく行う。

- 貯油槽
- 廃止届けとする。
- ボイラー
- 廃止届けとする。
- 給水装置
- 廃止届けとする。
- 浄化槽
- 廃止届けとする。
- 排水設備
- 廃止届けとする。
- 昇降機
- 廃止届けとする。
- 都市ガス設備
- 廃止届けとする。

○廃棄・廃アルカリ処理 吸収冷凍機、吸収冷水機等の撤去前に臭化リチウム水溶液の抜き取りを行う。ただし、抜き取り費用は（○本工事 ○別途）とする。

○ダイオキシン類調査 焼却炉等の撤去前に残灰よりサンプリング調査を行い、監督職員に報告する。ただし、サンプリング費用は（○本工事 ○別途）とする。

○廃油処理 オイルタンク、サービスタンク、油配管等は撤去前に内部清掃を行う。ただし、内部清掃、洗浄油の回収費用は（○本工事 ○別途）とする。

○冷媒（フロン類）の回収 冷凍機、パッケージ形空調和機等の撤去に伴う冷媒回収方法は、改修標準仕様書第3編 2. 4. 3により適切に行うこと。

ただし、家電リサイクル対象機器は除く。 冷媒回収の費用は（○本工事 ○別途）とする。

○家電リサイクル 対象機器は、 とする。なお、冷媒回収はポンプダウン方式とする。（リサイクル料金は本工事とする。）

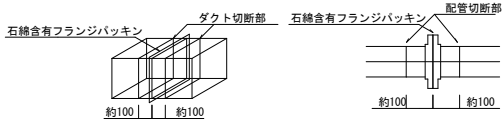
○汚泥・汚水処理 浄化槽及び排水槽内は汚泥・汚水を汲み取り、内部清掃を行う。ただし、汚泥・汚水・清掃洗浄水の回収費は（○本工事 ○別途）とする。

●アスベスト含有製品処理 ● 本工事

ダクト及び配管のフランジパッキン及び配管エルボ・チーズ部の保温材の処理方法は以下による。

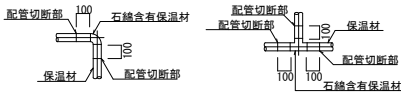
撤去するフランジ部、エルボ・チーズ部に含まれる石綿を処分するため、フランジ、エルボ・チーズの前後を切断し、他のダクト・配管とは別に廃棄を行う。

フランジ部撤去参考詳細図



1. 切断にあたり飛散防止処置として、フランジ部を飛散抑制剤の塗布又はテープ貼りを行う。
2. フランジ部両側約100mmの箇所において慎重に切断する。
3. 片側の切断終了後、フランジ部内部を外面同様、飛散防止処置として飛散抑制剤の塗布又はテープ貼を行い、もう片側の切断を行う。
4. 切断したフランジ付ダクトは、ビニール袋等に詰め、構外搬出適切処理とする。

配管エルボ・チーズ部撤去参考詳細図



1. 切断にあたり飛散防止処置として、保温材部を飛散抑制剤の塗布又はテープ貼を行う。
2. 保温材部両側約100mmの箇所において慎重に切断する。
3. 切断した保温付配管は、ビニール袋等に詰め、構外搬出適切処理とする。

● 配管種別（既設配管）

	配管種別	配 管 材 料
空気調和	○ 冷水水、冷却水	○ 配管用炭素鋼鋼管（白）
	○ ドレン管	○ 硬質塩化ビニル管（V P） ○ 配管用炭素鋼鋼管（白）
	○ 油	○ 配管用炭素鋼鋼管（黒）
	○ 蒸気	○ 配管用炭素鋼鋼管（黒） ○ 圧力配管用炭素鋼鋼管（黒）
	○ 冷媒管	○ 冷媒用被覆鋼管
給水	○ 屋内給水管	○ 水道用亜鉛メッキ鋼管 ○ 塩ビラインニング鋼管 ○ ポリエチレン粉体ラインニング鋼管
	● 屋外給水管	○ 水道用硬質塩化ビニル管（V W） ○ ポリエチレン管 ○ 塩ビラインニング鋼管（V D）
給湯	○ 給湯管	○ 配管用炭素鋼鋼管（白） ○ 鋼管
	○ 汚水管	○ 排水用鉄鉄管 ○ 塩ビラインニング鋼管 ○ 鉛管
排水	○ 雑排水管	○ 配管用炭素鋼鋼管（白）
	○ 通気管	○ 配管用炭素鋼鋼管（白）
	○ 屋外排水管	○ コンクリート管 ○ ビニル管（V P）
	○ 屋内ガス管	○ 配管用炭素鋼鋼管（白）
ガス	○ 屋外ガス管	○ ガス用ポリエチレン管 ○ 配管用炭素鋼鋼管（白）
	● 屋内消火管	● 配管用炭素鋼鋼管（白）

- ダクト種別
- 亜鉛鉄板
- 鋼板製
- 保温種別
- ロックウール保温材
- グラスウール保温材
- ポリスチレンフォーム保温材
- 化粧ケース（樹脂製）
- 衛生器具
- 陶器製
- S U S 製

III. 取りこわし内容

（1）共通

● 図示された、機器・ダクト・配管の取りこわしを行う。

○ コンクリート埋設部及び土間部の配管は建物と一体に取りこわしてもよい。

○ ダクト付属品・配管付属品は、ダクト・配管と一体で取りこわしてよい。

○ オイルタンク

- オイルタンク本体は、掘り起こし撤去とする。
- オイルタンクの用途廃止に係る安全管理指針に基づき撤去する。
- オイルタンク掘り起こし後は、現場発生土にて埋め戻しとする。

○ 浄化槽

- 浄化槽掘り起こしに伴う掘削工法は、法付け工法とする。
- 浄化槽掘り起こし後は、現場発生土にて埋め戻しとする。
- 浄化槽掘り起こし後は、現場発生土にて埋め戻しとする。

● 屋外設備

- 配管土工事は本工事とし、掘り起こし後は現場発生土で埋め戻しとする。
- 屋外給水配管の埋設深さは600Hとする。
- 屋外ガス配管の埋設深さは600Hとする。
- 斜掘り起こし後は現場発生土で埋め戻しとする。

- 給水装置
- 本管にて閉栓とする。
- 敷地内第1弁を閉としプラグ止めの上、埋設標示杭設置とする。
- 排水設備
- 本管にて閉止とする。
- 公設側にてキャップ止めとする。
- 都市ガス設備
- 本管にて閉栓とする。
- 敷地内第1弁を閉としプラグ止めの上、埋設標示杭設置とする。



